

# 都市における歩行・自転車環境の質の向上 —自動車中心から人間中心のモビリティへ—

本報告書は都市における歩行と自転車の現状について分析する。（歩行や自転車といった人間の身体活動を伴う）アクティブモビリティの潜在的な利点に関する文献を調査し、車中心の開発から脱却することの重要性を明らかにする。さらに、都市環境が車中心に発展した経緯を検討し、特に自動車中心主義的前提に焦点を当てる。本報告書は、アクティブモビリティの質、楽しさ、有用性そして安全性を向上させるために、モビリティ空間の中心に人間を置き直す提案をする。

本報告書は、ITFの「都市モビリティにおいて増加する自転車と歩行」ラウンドテーブルの議論を基にした。

## 政策提言

- **自動車中心主義的思考を克服する。** 数十年に及ぶ車中心の発展により疑問のない標準とされてきた、この「自動車中心主義」の結果、自動車によるリスクや危害は、他の状況では受け入れられないにもかかわらず、受け入れられることがある。多くの都市がこのアプローチを疑問視し始めている。
- **インフラを超えて考える。** 歩行者や自転車の人が無事で安全と感じ、歩行や自転車を楽しむことを保証するには、インフラに焦点を当てるだけでは不十分である。政策は、路上での暴力や社会的不利、その他の要因も目標に据えなければならない。
- **計画過程を再設計する。** 運輸の交通に対する投資の過程では、伝統的に車中心の選択肢が優先されてきた。ビジョン主導型アプローチは、これらの過程を再設計する基礎となり、アクティブモビリティを用いた移動がより包摂的で持続可能な都市に貢献することを保証する助けとなる。世界中の多くの都市で取組が進行しており、このような変化が起こりうることを示している。